

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.35) 蛮族ストーリー

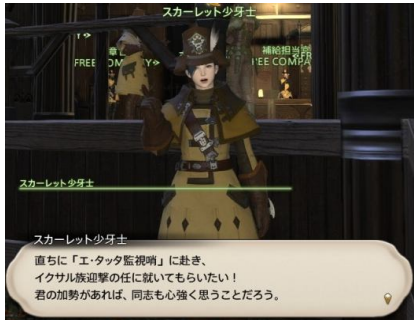


イクサル編 その1

雷雨来たりなば ～ 巡れ、夢の歯車

雷雨来たりなば

スカーレット少牙士：よく来た、冒険者殿。君に折り入って、依頼したい任務がある。実は、統合司令部に、緊急の一報が入ってきたのだ。グリダニア市街地の目と鼻の先にある、北部森林の「エ・タッタ監視哨」が、大規模な敵襲にあったらしい！「装甲気球」による急襲だ。なんとか攻撃の第一波は凌いだものの、被害は甚大。襲撃者は……そう、「イクサル族」だ！イクサル族のことは、もちろん知っているだろう？ 我らの仇敵であり、この黒衣森を侵す鳥に似た獣人種族。蛮神「ガルーダ」を奉ずる不屈きな蛮族だ。奴らは独自に開発した「装甲気球」を操り、上空から我々の領地を侵犯する。我らも、各地に監視哨を築き、迎撃に余念はない。……しかし、最近は戦力不足で対応が後手に回りがちなのだ。すまないが力を貸してほしい！直ちに「エ・タッタ監視哨」に赴き、イクサル族迎撃の任に就いてもらいたい！君の加勢があれば、同志も心強く思うことだろう。



グイスリット：お前は、統合司令部からの増援か？ 助かるぞ！ こちらはイクサル族の襲撃で、かなりの痛手を被ったが、先ほど、なんとか攻撃の第一波を撃退したところだ。監視哨から射かけた矢で、奴らの気球に風穴を開けてやったよ。そうしたら、フラフラと森の中に墜落していった。はは、ざまあみろだ！これで奴らも、しばらくは攻撃の手を休めるだろう。あやうく、都市上空への侵入を許すところだったからな。何とかになってよかったよ。当面の危機は凌いだが、まだまだ警戒を続ける必要がある。お前には「不時着した装甲気球」の様子を探ってもらいたい。場所は、北のピースガーデン方面だ……頼んだぞ！

グイスリット：おお、帰ったようだな！ どうだった、何か変わった様子はあったか？ふむ……これは、気球の部品か何かだろうか？ 詳しくはわからないが、イクサル族が作った物とみて、間違いないだろう。「装甲気球」は、イクサル族が独自に開発した飛行兵器だ。こいつのお陰で、奴らは空を利用し、黒衣森に侵入する手段を得た。近年では、森で不法に伐採した樹木を、気球を使って持ち出すなど、被害は増すばかり……。それゆえ、我々は各地に監視哨を建て、全軍が一丸となり、防衛体制を強化していたのだ。逆に言えば、監視哨は奴らにとって目障りな存在……。奴らの目的が監視哨の破壊ならば、ますます、我ら衛士がここを離れるわけにはいかん。すまないが冒険者よ、もうひと働き頼めるだろうか。再度、不時着した装甲気球の元へ赴き、周囲に異変がないか見回ってもらいたい。イクサル族め、大人しく撤退しているといいのだが……。

粗暴なイクサル族：げっひゃッー！ てめえ、何してやがるツウー！！ 装甲気球なら、オレたちが解体中だぜッー！？

粗暴なイクサル族：うおッー！ コイツ、ヒトだぜッー！ オウオウへ、何、汚ねえ手で触ってんだよッー！？そいつはツア、オレたちが集めた気球の部品だツア！

？？？：うっせえぞッー！ 何を喚いてやがるツウ！ ヒトにガン垂れられたくれえで、ガタガタ喚くんじゃねッー！

粗暴なイクサル族：セズルの親方ツア！……ああツア、よく見りやコイツ！ 「装甲気球の部品」を持ってやがるツウ！どおりで気球をバラしても見つからねえわけだぜッー！

セズル・トトロック：落ちつけやツア！ な～にビビってんだよッー！？ 今からオレが話つけてやっから、そこで見てろッー！姐ちゃん、ヒトの技師かツア？ ……いやツア、そうは見えねえなツア。見た感じ、カタギじゃなさそーだけどよッー。おっと、イキってんじゃねえぞッー！ オレたちや、見てのとおりイクサル族だがツア、オメエらの「シマ」を襲った連中と一緒にされちゃ困るぜッー。姐ちゃんが持ってる、その「装甲気球の部品」は、オレたちが、やっとの思いで手に入れようとしたブツだツア。だから、悪いのが譲ってもらえねえかツア？だが、もちろんタダとは言わねッー……取引というぜッー！ もし聞く耳持てんならツア、奥の柵をあけて中に入んなツア。面白れえモンを見せてやんぜッー！

粗暴なイクサル族：お、親方ッア！ いいのかッア？ こんな、どこの鳥の骨ともわかんねえ奴をよッオ！？

セズル・トロック：うっせッエ！ 口応えすんじゃねッエ！ ウダウダ言ってっつと、羽根むしって逆さ吊りにすっぞッオ！
……へッ、姐ちゃんよッオ。なかなかいい「目」をしてるじゃねえかッア……。待ってるぜッエ！

粗暴なイクサル族：てめッエ！ いいかッア……！？ ツルんでるヒトどもに、オレたちのことチンコロかましたら、
ポコポコにクラすかんなッア！ コラッア！

セズル・トロック：……おうおうおーッウ！ 待ってたぜッエ、姐ちゃんよッオ！ こんな所にアジトがあるなんて、ド肝抜かれたらッオ？
さあ、改めて取引といこうぜッエ……。
そうそう、コレだッア、コレッエ！ コイツが欲しかったんだよッオ！
よおーしッ、なかなか上物じゃねえかッア！ マブいぜッエ！
気球の風速計に使う「風読石」！ **ゼルファトルの隠れ谷**でしか、採れねえシロモンよッオ！
流星のオレも材料がなきゃ、モノは作れねえからなッア！
……あッン？ オメエは何者だって顔してんなッア？ アホかッア！ 見りゃわかんדרッオ？
オレたちもちろん、イクサル族よッオ！
だがなッア！ 伐採所やナタランなんかで、ヒトどもとドンパチやってるような、
軟弱な雛鳥ドモと一緒にすんじゃねえぞッオ！？
オレたちッア、その名も「エカトル空力団」！ ……そして、ここはオレたちのッオ「実験場」ッオ！
人呼んでッエ……「エカトル実験場」だッア！！
オレたちの目的はひとつだけッエ！ それは、「疾風（かぜ）になる」ことッオオオオ！
空を飛ぶために、命賭けてんだよッオ！ ヒトや蛮神なんざッア、ガンチューーにねえッエ！
バリバリ上等ッオ！ ヨロシクッウ！！



疾風の空力団

セズル・トロック：ああン？ 姐ちゃんよッオ！ 何だよッオ、その顔はッア？ 何か聞きてえことがあんのかッアー？

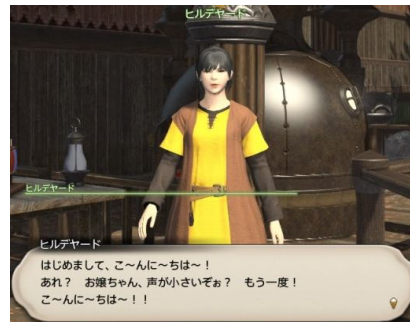
お前たちは何者だ？

なんだッア？ 警戒してんのか、オメエッエ？ ……確かにツイ、オメエらヒトと、オレたちイクサル族はッア、
森の覇権を巡って対立する宿敵同士ツイ……。
だがよッオ、オレたちは伐採所やナタラン入植地でッエ チョーシこいてる鳥頭どもとはッア、ワケが違うぜッエ！？
そもそも、ヒトと無駄な争いをするつもりもねえしなッア！

ここはどんな施設だ？

セズル・トロック：オレたちはッア、人呼んで「**エカトル空力団**」ッン！ イクサル族の熟練職人が集まった、技術者集団よッオ！
そして、ここはオレたちのアジト「エカトル実験場」だッア！
オレたち「エカトル空力団」の夢はッア、誰よりも高く「空を飛ぶこと」ッオ！
大空に羽ばたく「翼」を手に入れることだッア！
姐ちゃん、オメエ、「甲冑師」だろッオ？ げひやひやひやッア、そのナリ見ればわかるぜッエ？
モノ作りってのは、イカすよなッア！ ヒトもイクサル族も、職人に悪いヤツはいねッエ！
だからオレはオメエをこの実験場に呼んだのさッア！
姐ちゃん、試しにオメエの腕を見せてくれよッオ！ ……というのも、実は折り入って頼みたいことがあんのよッオ！
ほかでもねえ、ここじゃ作れねえ部材を作ってほしいんだッア！
この先に「フォールゴウド」つつ一集落があるだろッオ？ その施設で「エカトルの船体部材」を作って、
持ってきてくれよッオ！
その船体部材ってのはなッア、船体を内側から支える金属フレームだッア！ まさしく船の背骨となる部材ツイ！
「船体部材の材料」は、フォールゴウドの船着場にいる「キキレン族の商人」に、
注文してあっからよッオ、ヨロシク頼むぜッエ！
それから、「エカトルの船体部材」を作るときにはッア、コイツを使いやがれッエ！
エカトル空力団特製、「エカトルリストグロープ」だッア！
ソイツを着ければッア、オメエの甲冑師の腕は倍増ッウ！ バリバリ最強ッウ、ヨロシクッウ！

キキリン族の商人： お客ちゃん、いらっしゃいっちゃ。トリトリ、ダンナ、ハナシ、聞いてるっちゃ！
これこれ、注文されてた材料っちゃ！ ヤドヤのヨコに、トントン、作るどころ、あるっちゃ！
カンカン、そこで、作るっちゃ！
トリトリ、ダンナ、コワイっちゃ！ ピョンピョン、とばされて、ちゃりちゃりすると、もってかれるっちゃ！



ヒルデヤード： はじめまして、ごんに〜ちは〜！ あれ？ お嬢ちゃん、声が小さいぞ？ もう一度！
ごんに〜ちは〜！！
おやおやあ？ この施設を利用するのは初めてかな〜？ うふふ、だったらお姉さんが、やさしく教えてあげちゃうぞ？
お嬢ちゃん、用意はいい？
ここは、職人さんたちのための「製作施設」。エオルゼアには、色々な物品を作り出す職業があって、
たくさんの職人さんが、活躍しているのは知ってるよね？
そんな毎日働く職人さんに、快適に仕事をしてもらうため、誰もが「材料」を持ち込み、腕を振るえる工房を用意したの。
今はとりあえず「浮かぶコルク亭」に間借りして仮営業中です！ さて、今日はどんな材料を加工したいのかな〜？
あら？ これは…… 「船体部材の材料」じゃない！ 奇遇ねえ。こんな珍しい材料を扱う人が、ふたりもいるなんて……。

????： ヒルデヤードさん、頼んでいた物、届いていますか？ ララフェル族の少年：あれ？ その「船体部材の材料」……
ひょっとして、僕が頼んでいたものじゃないですか！？
ララフェル族の少年： ちょっと、どうなってるんですかつ！？ 横取りなんて、あんまりじゃないですか！？
その材料は、僕が1ヶ月前から予約していたものなんですよ？

ヒルデヤード： **タタラム**さん、勘違いしちゃダメ！ この「船体部材の材料」は、ここにいる冒険者さんが、自分で持ち込んだもののなの。

タタラム： そんな馬鹿な！ 嘘をつかないでください！ これは飛空艇を造るために必要な材料ばかりだ。
冒険者にそうそう必要があるものじゃない！
しかも、使いこなすには高度な技術を要して、熟練の技術屋だって敬遠する、玄人志向の材料です。
僕以外に、こいつを必要とする人がいるなんて信じられない！
……冒険者さん、見たところ、あなたも職人のようですが、いったい、その材料で何を作るつもりなんですか？
まあ、何を作るにしても、あなた程度の腕じゃ、製作失敗して台無しになってしまうのが関の山でしょうけどね！



ヒルデヤード： **タタラム**さん！ 失礼なこと言っちゃダメでしょ！

タタラム： ふんっ！ じゃあ、お手並み拝見といきましょうか。できあがったものを見せてください。僕が品評してあげますよ。

ヒルデヤード： まったく、**タタラム**さんったら……。……じゃあ、「船体部材の材料」をお返りするわね。製作、がんばろうねっ！

ヒルデヤード： 仕事が終わった子は、納品に行かなきゃだめだぞ〜！ 途中でなくしちゃったりしたら、お姉さんのところにまた来て、作りなおせばいいからねっ！

タタラム：……お手並み拝見といきましょうか。できあがったものを見せてください。僕が品評してあげますよ。
ほう、どうやら完成したようですね……どれどれ？……こっ……これは……っ！？
信じられない……見事に材料を活かしている！これを「船体部材」として用いるだって？
いったい、どんな飛空艇を造ろうっていうんだっ……！？
ば、冒険者さんっ……この船体部材、いったい誰の依頼で製作したんですかつ！？教えてください！

イクサル族！

黙秘します。

依頼人を言えないなんて……やはり何か、後ろめたいことがあるようですね。………さてよ？
社の技術部から、奇妙な噂を聞いたことがあります。黒衣森にて、鬱蒼とした森に隠れ、
秘密兵器の試作実験をしているイクサル族がいると……。
まさかとは思っていましたが……イクサル族といえば、グリダニアの仇敵！それが「飛空艇」を造るとなれば、兵器に違いない！
……ゆ、ゆ、ゆるせない！神聖な飛空艇を人殺しの道具に使うなんて……！イクサル族めええっ！

ヒルデヤード：ち、ちょっと！どこいくの！？タタラムさんっ！

タタラム：決まってるでしょう！そのイクサル族の実験場とやらに乗りこんで、問いただしてくるんですよ！！むおおおおおっ！



ヒルデヤード：タタラムさんったら！飛空艇のことになると、まるで見境がなくなるんだから……。
……というかあの人、イクサル族の実験場の場所、知ってるのかしら？
はい、お嬢ちゃんには、これ……船体部材！ちゃんとタタラムさんから取り返しといたから。依頼者に納品してね。
えっ？いったいあのタタラムさんって人は、何者なのかって？
ふふ……それはナイショ！本人に直接、聞いてみたら？

セズル・トロック：オウオウオウウ、姉ちゃんよッオ！よく帰って来たなッアー？どうだッア？例のブツは手に入ったかッアー？
コイツは姉ちゃんが作ったのかッアー？ほう……なかなかッア……やるじゃねえかッア！これで船体の開発が進められるぜッエ！

タタラム：うおおおおおおおっ！！
ハア、ハア、ハヒィ、ハヒィ……ハヒィ……やっど……ハヒィ……みつけました……！
こんなハヒィ……森の中に……あるハヒィなんて……ハヒィ……。

セズル・トロック：なんだッア？オメエッエ。

タタラム：な、なんだじゃないですっ！あなたたちですね！？大量殺戮兵器を満載した飛空艇を建造し、
グリダニアを壊滅させようと企む、イクサル族というのはっ！
自分たちが何をしているかわかってるんですかつ！？飛空艇を人殺しの道具に使うなんて、許せないっ！

セズル・トロック：オイオイオイオイ、ちよい待てよッオ！誰がヒト殺しの道具を造ってるってッエ！？
バカ言ってるじゃねえよッオ、このダボがッア！

タタラム：イクサル族は人の技術を盗用し、気球を模倣した！そして、その気球で人たちを襲っている！なんて卑劣な連中なんだっ！

セズル・トロック：うっせッエ！オイ、小僧ッオ！四の五の言わずにツイ、こいつを見やがれッエ！

タタラム：……こ、この設計図は……っ！？気球……？いや、飛空艇なのか……？見たこともない形状……だっ！

セズル・トロック：これこそが、オレたちが建造中の船ッエ！その名も……「デズル・クワラン号」ッオ！
目標到達高度はッア……高度5000ヤルムッウ！

タタラム：こ、高度5000ヤルムだって！？……ば、馬鹿なっ！絵空事だっ！
そ、そんな超高々度……噂に名高いシドの飛空艇、「エンタープライズ号」だって届かないはず！
そこは空というよりは……もはや神の領域に近い！



セズル・トロック : だあ〜かあ〜らッア！ そのオメエの言う「神の領域」の扉を、ノックしようとしてんだよッオ！ コンコンってよッオ！
「アヤトラン」……！ それは、遙か高空に存在するとされる幻の浮遊大陸ッウ！
かつてイクサル族の祖が棲んでいた故郷よッオ！
失われた楽園「アヤトラン」への帰還こそがッア、オレたちイクサル族の宿願だッア！
だがよッオ、今時そんな夢を見るヤツは少ねッエ！ 「ガルーダ」なんて、ヤベエ神サマ呼び出して、
ヒトとの戦いに夢中なヤツらばかりよッオ……。
そうじゃねえだろッオ！ オレたちは夢を追うぜッエ！ イクスル族の気球とヒトの飛空艇を融合させた、
この「デズル・クワラン号」でなッア！

タタラム : ……すごい……。なんて斬新な発想……。それに、壮大な夢なんだ……。
セ、セズル・トロックさん！ 僕……感動しましたっ！ どうか……この実験場で働かせてくださいっ！
このとおりですっ！ 何でもします！

セズル・トロック : なんだとッオ？ オレに弟子入りしてエってことかッア？ 小僧オ……何か手に職はあんのかッア？



タタラム : は、はい……飛空艇の設計技術の、ひとりの勉強をしました！ 経験はなく……技術者としてはまだ半人前ですが……
飛空艇への情熱なら誰にも負けませんっ！

セズル・トロック : あんだあ？ 単なる飛空艇マニアの小僧かよッオ？ 使ってやってもいいがよオ、ヒトだからって容赦はしねエぞッオ！？
ピシピシ働かせっから、覚悟しとけよッオ！

タタラム : ……はいっ！ がんばりますっ！

セズル・トロロック： オイ、オメエもだツァ、姐ちゃんよッォ！ さっきは言いそびれちまったがツァ……
この船体部材……いい仕事してやがるぜツェ！
その「エカトルリストグローブ」のチョーシはどうだツァ？ そいつをハメると、ガンガンに気合入って、
どんな難しいモノだろうが、作れる気になんらツォ？
もしオメエが、オレたちの「デズル・クワラン号」の開発に、協力してくれるつつんならツァ……
ソイツをくれてやってもいいぜツェ？
なあ、姐ちゃんよッォ！ 一緒に羽ばたこうぜツェ……「夢」の向こう側になツァ！
まかせろッォ！ バリバリ上等ッォ！
よおしッィ！ そう言ってくれると思ったぜツェ！

……いや、遠慮させてもらいます。

セズル・トロロック： オメエらヒトは、知らねえだろうけどよッォ…… むかあ〜しむかしッィ、オレたち「イクサル族」は、
この腕を翼として、大空を自由に飛べたんだとよッォ！
だがよッォ……精霊だか何だかの怒りを買っちゃって、黒衣森を追放されたことで、翼を失っちゃったツァ！
森を出てから生まれたガキはツァ、全員、風切羽を持っていなかったのさツァ！
……だからこそ、オレたちの魂は空を求めるんだよッォ！
そこでツェ、オレたちのご先祖はツァ、失った翼の代わりとして「気球」を造ったんだツァ！
オレたちは、その心意気を継いでるってワケよッォ！
けどなツァ……ほかの連中はツァ、自分で翼を造る意味を忘れちゃったツァ！ 神サマに、翼を恵んでもらおうと思ってやがるツゥ！
お笑いなのは「ガルーダ」に、その気がねえてことよッォ！ 生贄を求めるばかりで、翼をもらえた試しがねツェ！
ナタランの連中なんざ、すっかりブルっちゃってツェ、今じゃ女王サマの子分みてえになっちゃったツァ！
……だが、気合バリバリのオレたちは違うぜツェ！？
オレたちは、新たな翼を手に入れてみせるツゥ…… それが、「飛空艇」を造ることだツァ！！
オレたち職人集団「エカトル空力団」の夢よッォ！
オメエの腕にも、期待してっかんツァ！ 喧嘩上等ッォ！ ヨロシクツゥ！



タタラム： 知れば知るほど、「デズル・クワラン号」は素晴らしい船です！ こんな飛空艇の建設に協力できるなんて……
今まで生きてきた中で一番の幸せですっ！ ぐすっ！

設計士急募、種族問わず

セズル・トロロック： オウオウオウツゥ！ 姐ちゃんよッォ！ ちょうどいいとこにきたツァ！ オメエにひとつツゥ、折り入って仕事を頼みてえツェ！
オレの部下でツェ、機関部の設計を担当してるツゥ 「計図のボソル・エドゥアン」 ってえヤツがいるんだがツァ、
ソイツがツァ、いつまでたっても、帰ってこねえんだツァ！
ヤツは機関部材を調達しに行ったんだがツァ…… このブツは、船の推進機関に使う大事な部品だツァ！
コイツがねえと、開発が滞っちゃうツゥ！
オメエ、ちょっくら「**計図のボソル・エドゥアン**」を探して、連れて帰ってきてくれやツァ。
場所は……よくわかんねえが、南の方だツァ！

計図のボソル・エドゥアン： イ、イデエ……う、腕がツァ……。
うおッォ！ オ、オメエ誰だーツァ！？ 何ッィ？ セズルの親方に言われて来ただとッォ！？ マジかよッォ！？
ダ、ダメだツァ！ オレに近寄んじゃねツェー！ まだヤツらが近くにッィー！ ……はツァ！？

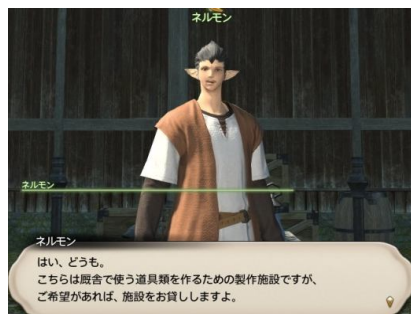
イクサル族の群長： ギャッハッァー！ 逃げても無駄よッォー？ 腕のチョーシはど〜うッォ？
もっと遊ぼうぜツェへ、雛鳥ちゃんよッォー？

計図のボソル・エドゥアン： ちッィ、まだいやがったのかツァ……。気い済んだらうがツァ！ さっさと帰りやがれツェ！



イクサル族の群長： オイオイオイ、ツレないんじゃねえのツォー？ そーいう、ナマイキな態度してっからツァー、一族の中でハブられるって、なんでわかんねえかなツァー？
無駄な抵抗すんじゃねえよツォ！ いい加減、オレたちの目的に協力しやがれやツァ！
嵐神「ガルーダ」様を召喚する、素晴らしき偉業になツァ！
ああん？ なんだデメエ……ヒトかツァ？ んだよツォ、ジロジロ見てんじゃねーぞツォ、コラツァ！
フンツ……帰ってセズルのクソヤロウに伝えなツァ！ 森の中でコソコソ動き回って、何やら企んでるみてえだがツァ、
チョーシくれてっつツォ、湖に沈めんぞコラツァ！
オレたちイクサル族はなツァ、素直に「ガルーダ」様に従ってりゃいいんだよツォ！
あツァ……お美しいツィ……ガルーダ様ツァ……！

計図のボゾル・エドゥアン： ハヒッ、ハヒッ……。大人しく去ってくれて、マジ助かったぜツェ……。
ヤツらは「イクサル軍伐採所」を根城にする連中よツォ。オレたち「エカトル空力団」を目の仇にして、
事あるごとに嫌がらせをしてきやがるんだツァ……。
くっ……腕が……腕が動かねツェ……。アイツらめ、俺の大事な商売道具をツォ……。
ヒトにモノを頼むのは、痛だだよツォ……。悪いらが、これを受け取ってくんねえかツァ！？
コイツは、セズルの親方に頼まれていたツァ、「デズル・クワラン号」に必要な不可欠な「エカトルの機関部材HQ」を
製作するための材料一式だツァ！
機関部材ってのはツァ、青燐機関部の主要部材ツ！ これがねえと、飛空艇開発ははじまらねツェ！！
オレに代わってオメエの腕で、高品質の「エカトルの機関部材HQ」に仕上げてくれツェ！
ヒトであるオメエなら、ここから東にある、「ツリースピーク厩舎」の製作施設を借りられるハズだツァ！
そこの「ネルモン」ってヤツに声をかけろツォ……。
くツウ……イデツェ……腕が引っしまったぜツェ……。親方からの依頼……頼んだぜ……ダチ公よツォ……。



ネルモン： はい、どうも。こちらは厩舎で使う道具類を作るための製作施設ですが、ご希望があれば、施設をお貸ししますよ。
ほうほう、この材料を加工したいと？ どうぞどうぞ、立派な施設とは言いがたいですが、必要最低限の設備は揃っていますよ。
それでは、先ほど見せていただきました材料は、お返ししておきましょう。さあ、存分に腕を振るってください！

セズル・トロック： オウオウ、帰ってきたかツァ！ ボゾルから話は聞いているぜツェ！ ……それでツェ、ブツは作ってきやがったかツァ？
よしよしツィ……。オメエには二つの礼をしなくちゃなんねーなツァ。ボコられたボゾルの救助と、機関部材の製作ツウ。
安心しな、ボゾルは仲間が手当てしてるぜツェ。それにしても、アイツらツァ……。ナメたまねしやがってツェ……。
神サマなんぞにすぎってもツォ、いつまでたっても空なんか飛べねえんだぜツェ！
アイツら、そんなこともわかんねえんだツァ、バカどもめツェ！

タタラム : 神様……? イクサル族が信仰する風神「ガルーダ」ですか?

セズル・トロック : あッア……そもそも「気球」ってのは、宙には浮くが、空を自由に動き回る推進力はねえんだッア。
それこそ、風のゆくまふ、気のゆくまふ……ってやつよッオ!
だから、気球に推力を与えるために、一族の連中は「風生みの珠」っていう道具を使う……。
コイツア、風神「ガルーダ」の加護を受けた秘宝よッオ!
文字どおり、風を吹き出す宝珠なんだがなッア、オレに言わせりゃ、推力としてはパワー不足だぜッエ!
それにあの「ガルーダ」ってヤツを、オレは信用してねえッエ!
あのクソノロバ! エラそんなこと喚いて、自分の欲求をオレたちに押しつけてばかりだッア!
いつまでたっても、一族の望みなんぞ聞いちゃくれねッエ!
だから、オレたちは神サマに見切りをつけたのよッオ! 現実主義者のオレたちが頼るのは、職人の技と心意気ッィ!
ヒトの技術だって、採り入れるぜッエ!

タタラム : ……なるほど、妨害したイクサル族の連中は、「エカトル空力団」が蛮神や仲間を裏切って、
人勢力に迎合していると思っているんですね……。

セズル・トロック : フン! オレたちや、最高のフルってわけよッオ! だが、ヒトに媚びるつもりも、軍門に降るつもりもねッエ!
オレたちは、一点の曇りもねえ、夢を追うだけよッオ!
しかし、まいったぜッエ……。怪我したボソルは、「デズル・クワラン号」の設計主任。
あの腕じゃ、まともに図面も引けやしねッエ……。

タタラム : ……飛空艇の設計なら、僕にやらせてください!



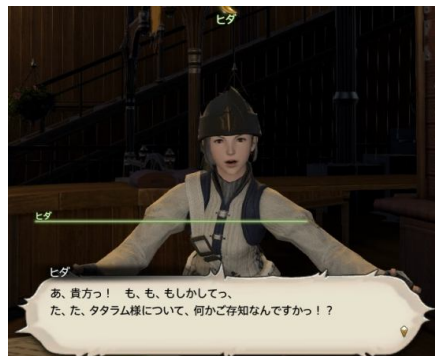
セズル・トロック : 小僧ッオ……チョーシ乗んじゃねッエ……! オレたちのやってることは、ガキの遊びとは違えんだよッオ……。
ナメた口叩くと、ブツ殺すぞッオ?

タタラム : ナメた口かどうか、まずは僕の話聞いてください! 実は前から考えていた、機関部の改良案があるんです!
僕の設計なら、出力をそのままに二割軽量化できます!

セズル・トロック : ……男に二ゴンはねえだろうなッア、小僧ッオ!? その設計が、欠陥だらけだったら、承知しねえぞッオ!
……………フン。設計士は小僧、技師は姐ちゃん……かッア。こいつあ、いよいよもって愚連隊だなッア、おいッィ!
しゃーねッエ! オメエらふたり…… 新たな「エカトル空力団」の開発メンバーに抜擢してやらッア!
これからもッオ、頼んだぜッエ……!!

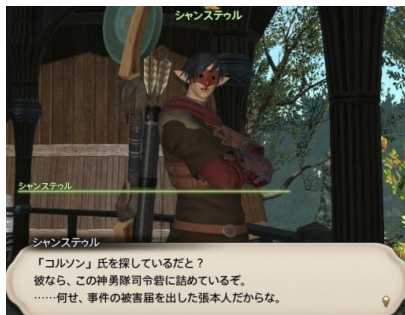
グリダニアから来た少年

タタラム：こんにちは、◇◇◇さん。見てください！ 飛空艇の建造はとても順調ですよ！
僕のアイデアも、いくつか採用されているんです！
◇◇◇さん…… 今さらですが、改めてお礼を言わせてください。
今まで誰も挑戦したことのない、新発想の飛空艇！ その設計と建造に携われるなんて、
技術者冥利に尽きるとは、まさにこのことです！
でも、実はちょっと困ったことがあります……。
僕の革新的な設計思想を実現させるには、どうしても高品質な「エカトルの機関部接合材HQ」という部材が必要なのですが、
これは実験場では調達できないのです。
あまり頼りたくはないのですが…… この際、仕方がありません……。知り合いに調達を、お願いすることにします。
◇◇◇さん、すみませんが、この手紙を「**コルソン**」という人に届けてくださいませんか？
彼ならきっと、皆に内緒で部材を用意してくれるはず……。
彼の居場所、グリダニア・ランディングの受付にいる、「**ヒダ**」という女性に聞けばわかるはずです。
不躰なお願いで申し訳ありませんが、よろしくお願いします！



ヒダ：こんにちは、ここは循環飛空艇乗り場です。……えっ？ 私に何か御用でしょうか……？
……コルソンさんの居場所を探している？ タタラムからの手紙を預かっている……ですって？
い、今……あ、貴方「タタラム」っていました！？
あ、貴方っ！ も、も、もしかしてっ、た、た、タタラム様について、何かご存知なんですかっ！？
た、た、た、大変ですっ！ ぼ、冒険者さんっ！ 今すぐ「神勇隊司令岩」に足を運んでもらえますかっ！？
神勇隊司令岩の「**シャンステュル**」様に報告してください！
お探しになっているコルソンさんも、神勇隊内に設置された対策本部にいらっしゃるはずです！ は、早くっ！

シャンステュル：おっと、冒険者よ。現在、神勇隊は深刻な事件を抱えているんだ。中で騒いで、捜査の邪魔をしないでくれよ。
「ハイウィンド社令意誘拐事件」…… 無事に解決するといののだが。
「コルソン」氏を探しているだと？ 彼なら、この神勇隊司令岩に詰めているぞ。……何せ、事件の被害届を出した張本人だからな。
今は、中の待合室で待機しているはずだ。話をするなら、言葉遣いには気をつけろよ……。
彼は、かの大企業「ハイウィンド飛空社」の重役なのだからな。



コルソン：はいはい、いかにも私がコルソンじゃ。何か用ですか？ 今、のんびきならぬ状況なもので、用件は手短に頼みますぞ。
ひゃっ！？ こ、こ、これは……タタラム坊っちゃんからの手紙！？
ど、どこでこれをっ！？ ぼ、坊っちゃんは無事なんですかの！？
ええっ！？ イ、イクサル族と一緒にいるじゃと！？ ぼ、坊っちゃんっ、どうかお待ちください！
このコルソン爺、命に代えて助け出しますぞっ！
神勇隊の精鋭と、ハイウィンド飛空社の雇った傭兵…… 合わせて一大隊規模の救出部隊を編成しましょう！
タタラム坊っちゃんっ！ もう少しの辛抱ですぞっ！

落ち着いてください。

こ、こんな非常事態に、落ち着いてなどいられますかっ！？ ……え？ 坊っちゃんは無事ですと？
……なんと！ 「イクサル族と飛空艇を造っている」ですと！？ こりやまたびっくり仰天、たまげたわい！

坊っちゃんは無事です。

申し遅れました……私の名はコルソン。「ハイウィンド飛空社」の技術顧問をしています。
……はい、あの循環飛空艇を運航しとる会社ですわい。
タタラム坊っちゃん「**ハイウィンド飛空社**」社長のひとり息子。つまり社の将来を背負う、跡取りとなる御令息であります。
坊っちゃんは数日前、私とともにグリダニアへと、循環飛空艇視察を兼ねた遊興にやってきたのですが、
少し目を離した隙に、忽然と姿を消してしまいましたな。
何か事件に巻き込まれたのでないかと大混乱！ 神勇隊を巻き込み、グリダニア中が、そりゃもう、
蜂の巣をつついたように、大騒ぎとなつとるのですわ！
しかし、まあ……これで肩の荷が下りましたわい。坊っちゃんが無事でひと安心。
何かあったら、社長に合わせる顔がありませんで。
……それにしても、坊っちゃんめ。「じっちゃんに調達してほしい部材があるんだ。
どうしても、飛空艇の開発に必要なんだ！」……ですと。
言い訳の手紙かと思ったら、部材調達の無心とは……。なかなか、ちゃっかりしておりますわい。
これも社長の血ですかのう。
部材は……機関部接合材ですか……。これは青銅機関部を、船体に取り付けるために必要な部材。
機関部の台座となるマウントフレームのことですな？
この老骨を、どれだけコキつかえば気がすむやら……。とはいえ、若者に頼られるというのは、嬉しいことですな。
冒険者殿、この「取引証書」を、フォールゴウドの施設管理者に渡せば、材料がもらえるでしょう。
材料をもとに部材を作るのは、冒険者殿におまかせしますぞ？
私は、タタラム坊っちゃんを信じております。イクサル族と一緒にいるというのも、
きっと何か、坊っちゃんなりの深慮あつてのことでしょうからな。

ビルデヤード : お嬢ちゃん、こへんに〜ちは〜！ あれ？ 声が小さいぞ？ もう一度、こへんに〜ちは〜！！
わぁ！ この証書の印は「ハイウィンド飛空社」だね！ こんな高価な材料を惜しげもなく使用するなんて、
流石は天下の大会社ってところかしら。
じゃあ、注文どおり「機関部接合材の材料」を用意したから！ 製作、がんばってねっ！



タタラム : おかえりなさい、冒険者さん！ どうです？ コルソンに手紙を渡せましたか？
おおつ、これ、これです！ この機関部接合材はハイウィンド飛空社を介さないと、調達が難しい貴重な代物なんです。
でも、これがあれば、現在建造中の「デズル・クワラン号」に僕が改良した機関部を接合することができます。
いよいよ僕の設計が試される時が来ました！
す、すみません、飛空艇のことになると、つい我を忘れてしまう性分です……。
……僕の正体を、コルソンのじっちゃんから聞きましたか？
……はい、確かに僕の父は「ハイウィンド飛空社」の社長。エオルゼアの各都市を結ぶ循環飛空便を運航する、
あの国際的な航空会社です。
そんな大会社の跡取り息子ですからね。どこへ行っても貴賓待遇を受け、特別扱い……。
かといって、家にいれどきで、次期社長としての教育の数々が待っています。
経営学に帝王学……すべては飛空艇で金を儲けるために……。
でも、僕が本当にやりたいことは、金儲けなんかじゃない。こんな立場、もうウンザリなんです！
……だから僕は自分の意志で、この実験場へと逃げてきました。
僕は、経営者である前に、技術者でありたいんです！ 僕のことを誰も知らない場所で、
自分の知識と技術を頼りに、設計士としての腕を試したい！
単なるお坊っちゃんの道楽だと、笑いたいなら笑ってください……。でも……僕は金や名誉なんかいらない！
「素晴らしい飛空艇を造る」！ 何よりも高く、速く、大空を飛ぶ翼が欲しい！ 僕の夢は……たったひとつ……それだけなんです！

セズル・トロック : よく言ったツァ、小僧ツォ！ 話は聞いてたぜツェ！
オメエが大金持ちだろうが何だろうがツァ、関係ねツェ！ 何せ、オレたちイクサル族だからよツォ！
ヒトの金なんざ、溶かして釘にした方がマシってもんよツォ！

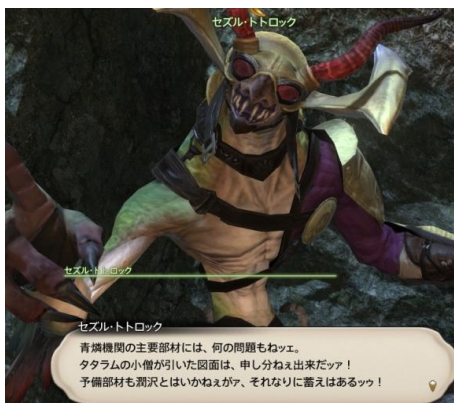
タタラム : セズルさん……。

セズル・トロック : オウオウツウ！ いいかツァ？ その心意気はツァ、思う存分、「デズル・クワラン号」にぶつけやがれツェ！
ナメんなよツォ？ こいつはオメエに媚びたりはしねツェ。だが、かけた情熱の分、こいつはオレたちに応えてくれるツウ。
それが「モノを作る」ってコトよツォ！
打ち上げようぜツェ……！ 尻に火いつけて、楽園「アヤトラン」にぶっぱなすツウ、
とびきりでっけえ「夢」って名のツォ……花火をよツォ……。

タタラム : ……はいっ！

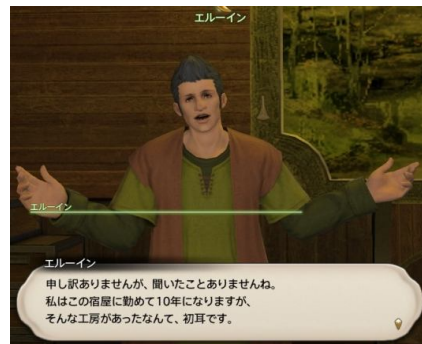
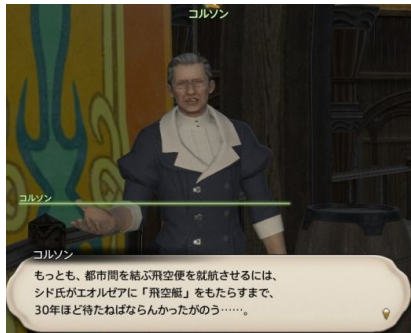
巡れ、夢の歯車

セズル・トロック： オウオウオウツッ！ 姐ちゃんよッオ！ いいとこに来やがったツァ！ 聞いてくれツェ！
ついにツィ、ついにツィ！ 「デズル・クワン号」完成のメドが立ちそうだツァ！
というもツォ、これから飛空艇の心臓部とも言うべきツィ、青燐機関の動力伝達系の作業に着手するツッ！
このヤマを越えればツァ、完成は目前よッオ！
青燐機関はツァ、とりもなおさずヒトの最先端技術ツッ！ そいつをオレたちだけで、独自に設計、製造するツッ！
まさしく、イクサル族の歴史に残る偉業だぜツェ！
青燐機関の主要部材には、何の問題もねツェ。タタラムの小僧が引いた図面は、申し分ねえ出来だツァ！
予備部材も潤沢とはいかぬツァ、それなりに蓄えはあるツッ！
……だがツァ、だがよッオ！ ひとつだけツェ！ ひとつだけ、ドでけえ問題があるんだツァ！
動力伝達系の部品を作るための「工作機械」が、この「エカトル実験場」にねえってことだツァ！
青燐機関が生み出した動力をツォ……。推進装置に伝えるための精密な部品の数々ツッ……。
ソイツがツァ、オレたちのカじゃ、自作できねえんだよッオ！
「旋盤」だツァ……。部品を切削加工するための、丈夫な「旋盤の歯車」ツァ……。
それさえあれば、なんとかなるんだがよッオ……。
なツァ、姐ちゃん、頼むツッ！ なんとかして「旋盤の歯車」を手に入れちゃくれねえかツァ？
専門的な品だ、探すのが難しいってのは百も承知ツィ！
だが、これはヒトにしか頼めねツェ！ 「デズル・クワン号」の命運はツァ、オメエの双肩にかかってやがるんだツァ！



タタラム： ◇◇◇さん、話は聞いていました。精密部品を自作するための工作機械……「旋盤」ですね？
「旋盤の歯車」……難しいですね。歯車が僅かに歪めば、当然、回転にブレが生じ、精密部品の加工はできなくなります。
セズルさんが求める精密部品が作れる「旋盤」となると、歯車ひとつにも、とんでもない精度が求められます。
髪の毛一本の誤差も許されぬ世界ですよ。
そんな「旋盤の歯車」を作る腕前の職人となると、エオルゼア全土でも、片手の指ほどしかいないでしょう。
……しかし、運良く職人を見つけ出しても、歯車が完成するまでに、どれほどの時間が必要か……。
そうなれば、開発は停滞してしまいます！
最短で入手するには、所有者を探すのがいいでしょう。でも、そんな貴重品を譲ってくれるような人なんて、
いるはずがないですよ……。
まてよ……「旋盤」……？ ……昔、見たことがあるぞ。確か、僕がまだ幼かったころ、お祖父ちゃんの工房で……。
◇◇◇さん！ すみませんが、グリダニアに足を運んでもらえますか？
じっちゃん……コルソンにもう一度、話を聞いてほしいんです。
コルソンのじっちゃんは、ハイウィンド飛空社の古参社員。お祖父ちゃんの工房にあった「旋盤」について、
何か憶えているかもしれない！
じっちゃんなら、カーラインカフェに滞在しているはずですよ！ よろしくお願いします！

コルソン： おやおや、あなたは…… タタラム坊っちゃんに雇われていた冒険者ですか？ 本日は、いかなる用件ですか？
……む？ 坊っちゃんからの伝言です？ ほうほう……先代社長の工房にあった「旋盤」ですか。
こりゃまた、懐かしい話を持ち出したものじゃのう。
あれは、かれこれ50年近く前のことですかのう……。当時の私は、駆け出しの職人。
冒険家で事業家の「**タタノラ**」さんの元で、修行の毎日じゃった。
ある日、タタノラさんが画期的な事業計画を提案しましての。
それはイクサル族が開発した「気球」を転用し、遊覧飛行を行うという、夢の事業じゃった。
それがエオルゼア初の航空会社…… 「ハイウィンド飛空社」誕生の瞬間でしたのじゃ。
もっとも、**都市間を結ぶ飛空便を就航させるには、シド氏がエオルゼアに「飛空艇」をもたらすまで、
30年ほど待たねばならなかったがのう……。**
……じゃが、今でも夢に見る。タタノラさんと夢を語り、ただひたむきに気球を造った、あの工房での輝かしい日々を……。
……おっと、これは失敬。歳をとると話が長くなっていかんですわ。え〜と……そうそう、「旋盤」の話じゃったな。
恐らくタタラム坊っちゃんが「旋盤」を見たという場所は、フォールゴウドにあった旧工房のことじゃろう。
若旦那……つまり現社長が引き継いだ後、工房は閉鎖され、建物も解体されてしまいましたがの。
時の移ろいを感じずにはおれませんな。
当時のことを知る者は……はて、まだいるかのう？ 「浮かぶコルク亭」の従業員にでも聞いてみるとよいでしょう。



エルレイン： ようこそ「浮かぶコルク亭」へ。お泊りですか？ ……おや？ 私に聞きたいことがあるって？
……「旋盤」？ 何ですか、それ。ふむふむ……昔、このフォールゴウドにあった、
「ハイウィンド飛空社」の工房にあったはずですよ？
申し訳ありませんが、聞いたことありませんね。私はこの宿屋に勤めて10年になりますが、
そんな工房があったなんて、初耳です。
……あ、そうそう、「旋盤」は知りませんが、持ち主不明の古い預かり物なら、山ほどありますよ？
何なら、ダメ元で調べてみますか？
うちは、フォールゴウドで一番大きな建物ですからね。その倉庫には、住民やお客様やらが持ち込んだ、
古い品々が眠っているのですよ。
ちょうど、この前、倉庫の整理を行いまして、持ち主不明の品を捨てるために、外に出したところですよ。
どうぞ、ご自由に持って行ってください。

タタラム： ◇◇◇さん、それはもしかして……！ 「旋盤の歯車」じゃないですかっ！？
……やっぱりそうだ！！ こんなところに「旋盤」があるなんてっ……まさに奇跡だっ！
これで必要な精密部品が製作できます！
この「旋盤の歯車」は、僕の祖父…… 「ハイウィンド飛空社」の創設者である「タタノラ」のものです。
お祖父ちゃんは僕が幼少の頃に亡くなりましたが、その晩年にも、よく職人たちの工房に出入りしていました。
「いいか、タタラム。
夢を叶えるために必要なのは、金じゃない！
情熱と魂！ そして翼を広げ、何よりも高く飛ぶことじゃ！」
……お祖父ちゃんの説教は、何より心地よい子守唄でした。僕が飛空艇の設計士を志したのは、
きっと、お祖父ちゃんの薫陶なんでしょうね。
……ん？ この「旋盤の歯車」…… 表面に何か、文字が彫りこんでありますね……。
『わが友、デズル・クワランに贈る。
変わらぬ友情を、その翼に誓って。』

タタノラ』

……………こ、これは。もしかして……。
◇◇◇さん！ すぐに「エカトル実験場」に戻って、この「旋盤の歯車」をセズルさんに渡しましょう！
僕も、確かなめきやならないことがあるようです……！

セズル・トトロック： オウオウオウ、帰ってきたかッア！ 待ちくたびれて、尻が止まんねエモッオ！
うおおおおおおおおおおおッオ！！ こいつはッア！ 「旋盤の歯車」ッア！！ でかしたぞッオ、姐ちゃんッン！
よおし、よしよしよしよしよしよしッ！！ これで「デズル・クワラン号」の完成がッア！
いよいよ、現実味を帯びてきやがったッア！！

タタラム： セズルさん……。あなたに聞きたいことがあります。

セズル・トトロック： なんだッア？ 小僧ッオ！ ガラにもなく神妙な顔しやがってッエ。クソでも漏らしそうになったかッア！？

タタラム： セズルさん。その「旋盤の歯車」に刻まれた文字を読んでみてください。

セズル・トトロック： んだッア？ 文字が何だってんだッア……？ ……………こっ、これはッア……！！
『わが友、デズル・クワランに贈る。
変わらぬ友情を、その翼に誓って。』

タタノラ』

タタラム： タタノラというのは、僕の祖父。46年前「ハイウィンド飛空社」を創業した実業家です。
そして、そこに書かれた「わが友」の名前は……。

セズル・トトロック： ……………げひゃッ！ げひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃはッア！！ なんてこったッア！ こりや面白れッエ！！

タタラム： どういうことなんですか？ セズルさん……。

セズル・トトロック： どうもこうもねッエ！！ この「旋盤の歯車」は、ほかでもねッエ、元々、オレたちのものだったってコトよッオ！
「デズル・クワラン」……イクサル族の異端児にして天オッィ！ 「エカトル空力団」初代団長ッオ！ 気球造りの達人ッン！
そして……オレの尊敬する師匠の名前だッア！

タタラム： なっ！？ じ、じゃあ、僕たちの造っている飛空艇の名前は……？

セズル・トトロック： おッオ！ もちろん、師匠の名前を拝借したのよッオ！ 「デズル・クワラン」……オレたちのケツを蹴り上げてッエ、
空に舞う船に、これほどふさわしい名はねえからよッオ！

タタラム : じゃあ……やっぱり、あの噂は本当だったんですね……？

セズル・トロック : 噂だッア……？

タタラム : 僕の祖父、タタノラがハイウィンド飛空社を設立した端緒。それはイクサル族の気球技術を学んだこと。
当時の気球は、イクサル族のソレを模倣したものだった……と。
「獣人の技術を盗用するなど、社の沽券に関わる」と、社史からも封殺され、対外的にも否定している噂です。
僕自身も、単なる風評だと思っていたのですが……。

セズル・トロック : 風評なものかよッォ！ オメエらヒトは、オレたちの技術を盗みやがったんだッア！
バクリだぜッェ！ バクリッィ！ このバクリ野郎ッォ！

タタラム : ……………。

セズル・トロック : な～んつつてなッア！ げひやひやッア、冗談だぜッェ！ しかも、この文章を見る限りッィ、
「技術を盗んだ」つつーのは、誤解だったようだなッア……。
オレの師匠「デズル・クワラン」と、小僧のジジイは、「マブダチ」だったみてえじゃねえかッア……。
技術は「盗用」じゃなく、「提供」されたモノだったのさッア。
まったくよッォ……。イクサル族もヒトも、同じバカ同士だったてことだッア……。
バカの見る夢ってのはッア、今も昔も変わんねえなッア……。

タタラム : セズルさん、僕、そして◇◇◇さん……。不思議な運命のめぐりあわせですね……。世代を超えて、「夢」は再び繰り返す……か。

セズル・トロック : ナニ、尻の痒くなること言ってんだよッォ！ ゴラッア！！ 相変わらずオメエはッア！
その舌、旋盤で斬り落とすぞッォ、クソガキッア！